

だから私は名古屋の近郊で偏愛を叫ぶ 名古屋学事始め

「でも市外でしょ？」のひとこと「名古屋っ子」の誇りを傷つけられた少年は、ひとり名古屋探しの旅に出た。そこで見えてきたものは。名古屋とは何か？ なにももって名古屋と言うのか？ 岐阜、三重を巻き込む複雑な地元愛の謎を川合さんが解く。

放送作家・ライター

川合登志和

●かわい・としかず 1975年名古屋生まれ。学生時代から東海3県の雑学サイト「トッピーネット」を主宰。信用金庫、メーカー勤務を経てフリーライターに。東海ラジオなどメディア出演も多数。

わが街の主体はどこにある

小学生だった冬のある日のことです。前日から降り続いた雪が積もり、校庭は一面真っ白になっていました。愛知県の平野部でこの風景は珍しく、先生が「一時間目は授業をやめて校庭で雪遊びをしましょう」と言うと、クラスのみんなはざら板（すのこ）

で上履きから運動靴へと履き替え、昇降口から外へと駆け出し、雪合戦を始めたのです。

すると、大きなカメラを持った人が校庭に入ってきました。先生と少し言葉を交わすと、私たちが雪合戦をしている様子を撮影し始めたのです。私は興味があったので「どうして写真を撮っているのですか？」と聞くと、「雪合戦の様子を新聞に載

せようと思って」と返ってきました。

その方は『中日新聞』の記者でした。「え！新聞に載るの？」と興奮気味に聞くと、「確実に載るかどうかはわからないけど、載るとしたら明日の『近郊版』かな」と答えられました。当時、私が住んでいた地域の『中日新聞』の地域面には「近郊版」というタイトルが付けられていました。そのため、幼少期の私は「近

郊」という地域に住んでいると思っていました。

日常生活のなかで「近郊」という言葉を使うことはありませんか？

「近郊」は「都市の近くの郊外」を指し、あくまでもその言葉の主体は都市です。「東京近郊」「大阪近郊」など、都市名とともに使われることはあっても「近郊」という言葉が独り歩きすることはほとんどないのではないのでしょうか。

もちろんこの『中日新聞』の近郊版は「名古屋近郊」を指しています。では一方で、『中日新聞』の名古屋市内向けの紙面はどうなっているかというと「市民版」です。わざわざ「名古屋市民版」とはしていないのです。

つまり、名古屋とその周辺においては、中心となる都市は名古屋を指

すのが当たり前であり、わざわざ名古屋と言わずとも「近郊」「市民」と言っただけで、それが名古屋を中心とした世界における表現であるというのを誰もが把握・理解でき、誰もが持ち合わせている感覚であると言わんばかりなのです。

あの雪合戦をした日から四十年ほどの月日が流れましたが、今でも『中日新聞』は「近郊版」「市民版」という紙面を作り続けています。

そんな、主体性を持たない「近郊」と呼ばれる地域で育った私ですが、生まれは名古屋市内です。母が里帰り出産をしたため名古屋市内の病院で生まれることができたのですが、両親は当時、名古屋の近郊に誕生したばかりのニュータウンに新居を構えました。

名古屋のベッドタウンとして同様に名古屋市内から移り住んだ人も多

く、学校で交わされる言葉は名古屋弁、味噌汁は毎日「赤だし」、休日 はたまに栄の百貨店へと連れて行かれるなど「名古屋っ子」として育てられ、自ら「名古屋人」であると思っていたのですが……。

高校でショックを受けることとなります。隣の高校に通うこととなり、そこは名古屋市内からも生徒がやってくる環境でした。私は特に意識することなくそれまでと同じように「名古屋っ子」として会話をしていたのですが、そこで一部の名古屋市民からたびたび言われることになったのが「でも市外でしょ？」という言葉です。

名古屋近郊で名古屋っ子として育った私が初めて「あなたが住んでいるところは名古屋ではない。あなたは名古屋っ子ではない」とレットルを貼られたのです。そこから私の名